

# うらおそい歴史新聞



## 第58号

### 歴史ロマン街道

#### 「尚寧王の道」を訪ねる

一六二〇年九月十九日、尚寧王が亡くなり、今年、没四〇〇年と言う節目を迎え、浦添で生まれ育った尚寧王は、一五九七年に浦添から首里までの間を石畳に改修しました。

時を経て、その地を訪ね、時代とともに変容してきた道の姿と周辺に残る史跡を、歴史ガイドの解説を聞きながら歩くことが出来ます。文化とスポーツの秋にぜひ一緒に歴史の道のあるき、浦添のいいところを再発見して見ませんか。

●日時 令和2年11月3日(火・祝)

●受付 8時～8時30分

●時間 8時50分～12時頃

#### ●集合場所

浦添グスク・ようどれ館駐車所

#### ●解散場所

首里「円鑑池」(現地解散)

#### ●参加料

大人・子供ともに300円

#### ●募集人数

50人

※小学生以下は大人の同伴が必要です

※申込期間 10月29日(木)まで

※先着順。定員に達し次第締切。

●申込先 浦添グスク・ようどれ館

●電話 098-874-9345

#### ●順路

浦添城の前の碑→龍福寺跡→浦添番所跡→安波茶橋→経塚の碑→ニシヌヒラ・フェーヌヒラ→太平橋(平良橋)→儀保クビリ→安谷ガク御嶽→首里城久慶門

※コースは約4・5キロで起伏あり

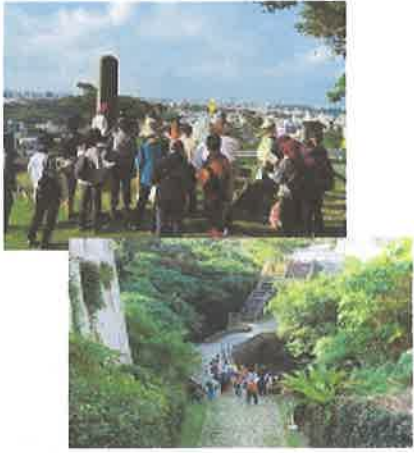
●主催 うらおそい歴史ガイド友の会

●共催 浦添市教育委員会

●浦添市

●当日は現地解散です。帰りの交通手段は各自で確保して下さい。

※当日は、首里城にて「古式行列」が開催されます。ウォーキングの後に、ご覧なられてはいかがでしょうか。



### 尚寧王 本当はどんなお顔

首里城火災前の南殿二階に、第二尚氏歴代の国王の御後絵が展示され、浦添育ちの尚寧王の御後絵もありました。一番ハンサムに描かれているのは自慢ですが、悲しそうな表情や線の細さは打ち消しようもなく、「尚寧王はこんなヤワなお顔じゃくない」と、つぶやいてしまうのでした。なぜならば、金石文や中国・薩摩との外交文書から伺える尚寧王は、一筋縄ではいかない手腕の持ち主ではないかと思えるからです。

御後絵は王府の絵師が国王が亡くなった際に描く肖像画といわれています。首里城に展示されていた御後絵は、明治期に鎌倉芳太郎氏が撮影し、沖繩戦をくぐり抜けた貴重な文化財です。しかし「おひかえ」とよばれ、円覚寺に納められたオリジナルの御後絵ではありません。とくに尚円王から尚穆王の御後絵は、一七九六年に王命により制作された「おひかえ」です。

尚寧王が亡くなったのは1620年。つまり、170年以上も経過して描かれた「おひかえ」の御後絵になります。「浦添グスクの前の碑」には、尚寧王の命により宿道を石畳や石橋に造り変え、完成した時には、聞得大君が浦添グスクへ行幸しグスク内の聖所で祈願をし、王府の役人から村の老若男女までたくさんの人々を招いて褒美を与えたと記されています。

薩摩の侵攻後、一六一〇年八月に駿府で徳川家康に、江戸で秀忠に謁見していますが、皮弁服に王冠をつけた正装で臨み、屋根に鳳凰の飾りのある御輦で城に乗り付けました。家康は二人の幼い子どもに能を舞わせてふる

まい、秀忠は大名の居並ぶ広間で尚寧王を迎え入れました。

帰国後、尚寧王が心血を注いだのは、明との外交政策でした。朝貢貿易は二年一貢から十年一貢に変更と告げられたのは、日本の傀儡になつていたので懸念されたためです。重大な財政危機に直面する一方で、島津家久からは日明貿易の斡旋や内政介入などを要求する文書が矢継ぎ早に届きます。

山積する難問。尚寧王は明へ使者を送り信頼回復に努めますが、十年一貢を取り消すことはできませんでした。島津氏へは日明貿易の斡旋を拒否し、時には「面従腹背」の態度を見せつけるなど、島津氏の思惑を読み取っていきます。

享年五六。尚寧王は浦添ようどれに眠っています。もしデスマスクがあつたとしたら、意志の強さと王の威厳を漂わせる凛としたお顔に違いない。亡くなって四百年に思うこのごろです。



左(複製名文) 右(真文)

当、友の会は、浦添グスクや浦添ようどれを巡回しています。簡単な説明や道案内等も行いますので、ガイドの名札をご認のうえお気軽にお声かけください。

ご利用案内

「うらそえ歴史ガイド」

ド友の会」が浦添市より

表彰されました



去った、10月6日に、てだこ大ホールに開催された市制50周年記念式典にて「うらそえ歴史ガイドド友の会」も文化部門で表彰されました。

うらそえ歴史ガイド友の会は、浦添グスクを中心に地域の歴史や文化を広く紹介する活動を行っており、地域づくりや、観光振興に貢献しております。

ガイド一人につき1時間程度（1500円）2時間（3000円）でガイドをお引き受けします。最近では、県外からのお客さまが多数お越しいただいております。お気軽にご連絡ください。

○浦添グスク・ようどれ館

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や戦前の写真パネルなどを展示しています。

【開館時間】午前9時～午後5時

【入館料】

大人（高校生以上）100円

小人（小中学生）50円

※市内小・中学生は無料

【休館日】

月曜日（祝日は開館）・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53-1

【電話】098-874-9345

【アクセス】

琉球バス交通 牧港線（55番）

仲間バス停から徒歩5分



【浦添グスク・ようどれ館】

浦添ようどれ墓室（西室）の原寸大の模型がみどころ。館内は、NPO法人うらそえ歴史ガイドが展示の解説も担当します。駐車場も完備しています（大型バスも対応可）。

○浦添大公園南エントランス展示コーナー

浦添グスクの南側入口にある県営公園の施設です。浦添グスクの模型のほか、グスクを紹介するパネルや出土品のレプリカを展示しています。入場無料ですので、お気軽にお訪ね下さい。

【開館時間】午前9時～午後5時

【入館料】無料

【休館日】

月曜日（祝日は開館）・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53

【電話】098-876-3555

【アクセス】

琉球バス交通 56系統

浦添小学校前バス停から徒歩5分



【浦添大公園南エントランス展示コーナー】

施設の中には「うらそえ歴史ガイド」が解説員としていますので、解説をご希望の方は気軽に声をかけてください。駐車場も完備しています（バス対応可）。



浦添市歴史にふれる館の地図



※仲間バス停から徒歩5分

浦添グスク・ようどれ館と浦添大公園南エントランス展示コーナーの地図

○うらそえ歴史ガイド ツアー 随時受付中です！

浦添グスクをはじめとした、市内の史跡や歴史スポットを有料でガイドします。

料金ガイド1名当り（20名まで対応可）1時間 1,500円/2時間 3,000円

団体でのご利用や、コースや時間などは相談に応じます。お気軽にご相談下さい。

申込先 浦添グスク・ようどれ館  
電話 098-874-9345